

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18330098

研究課題名 (和文) 現代農村の生活維持における村落組織の再編に関する実証的研究

研究課題名 (英文) Re-organization of Rural community in Life Maintenance

研究代表者

松岡 昌則 (MATSUOKA MASANORI)

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70111242

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会学、村落組織、村落機能、地域振興、農村高齢者、地域農業

1. 研究計画の概要

現代農村において、住民が生活を維持し住み続けるための条件を、基礎的日常生活空間としての村落における諸組織の現代的組み替えの可能性と方向性を提示する。

2. 研究の進捗状況

計画年度の3年まで、研究代表者および各研究分担者の調査対象地を、各課題にもとづいて調査を進め、それぞれの異動についての検討を行ってきた。

それぞれの村落の組織・集団、及び社会関係における基本構造の分析はほぼ終了し、生活の持続的発展の諸相を分析している。

農村の生活維持にとって、地域農業の発展は不可欠であるが、随所に新たな農の取り組みが見られ、村落組織の再編が行われている。営農組織の結成や出荷組合、直売所、有機栽培等をはじめ、グリーンツーリズムをはじめとする都市農村交流の活発な実践、観光による地域振興等の今日的な取り組みである。

また、農家の副業として行われてきた地場産業の情報発信による取り組みもある。

これらは従来の農業経営による将来への閉塞性に対しての新たな試みの数々である。

さらに生活維持の困難性が指摘されるものとして、農村高齢者の生活現実がある。この点についても、高齢者の生活補完と村落との関係についての分析は着実に進められている。

さらに、そうした住民の取り組みを可能にする日常的な学習と実践が、今日的なライフロンディングの活動として息づいている。

これらはいずれも当該地域における生活の維持向上を目指す住民の主体的な活動であり、現代村落の質的变化を物語っている。

このような現代村落の村落生活を詳細に分析することによって、これまでの農村社会学におけるイエ・ムラ理論を相対化し、農村で生活を続けていくための組織としての村落を、時代性と日本農民の生活実践から明らかにし、日本村落の現代的変容の方向性を明らかにしつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究は聞き取りを主としたインテンシブな調査であり、補充調査を重ねつつ進める点に特徴があり、これまでの3年間で、多くの聞き取り資料を蓄積してきた。それぞれの地域での生活実態と改善の取り組みについて、大枠は把握しており、今年度はそのとりまとめの段階にある。

4. 今後の研究の推進方策

(1)地域住民の生活を維持する試みと村落との関わりは、地域の構造や特質と密接に関わりつつ異動をみせているが、今後はそれらの異動を村落組織の再編の可能性を探りながら、現代農村における村落を、今日の時代性と日本農民の生活様式の両面から明らかにし、日本村落の普遍性と現代的課題を提示する。

(2)研究代表者及び各研究分担者は、現在、最終報告書の作成に向けて議論を煮詰めているところである。成果は著書としてまとめる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

松村和則「動かないムラ」を考える、社会学年報、査読有、36巻、2007年、61-90

〔図書〕(計 1件)

小林甫「公民館の手引き・別冊」北海道公民館協会、2009年、18